

令和3年度  
学校関係者評価報告書

令和4年3月

富山市立富山ガラス造形研究所

学校関係者評価委員会

# 富山市立富山ガラス造形研究所

## 学校関係者評価報告書 令和3年度版について

令和2年4月より高等教無償化制度が創設され、一定の基準を満たす大学等に在籍する学生を対象に給付型奨学金や授業料等の減免措置が行われることになりました。

この制度を実施できる大学等として確認を受ける機関要件の基準の一つに「学校関係者評価の実施・結果の公表」があります。

学校関係者評価とは、教職員が学校の目標・計画等に沿った取り組みの達成状況などについて評価した自己評価の結果及び今後の改善方策について、学校関係者が評価し、運営改善のための助言を行うことを目的とするものです。

これを受けて、一昨年4月1日に「富山市立富山ガラス造形研究所学校関係者評価委員会」が設置され、私達が委員として委嘱されたところです。

今回、令和4年3月に「富山市立富山ガラス造形研究所学校評価委員会」が作成した学校自己評価報告書（令和3年度版）を基に学校関係者評価を行いました。その結果を以下の通り報告いたします。

令和4年3月

### 富山市立富山ガラス造形研究所学校関係者評価委員会

#### <委員>（五十音順）

- 長島 美穂（マイルストーンアートワークス代表）
- 畠山 耕造（富山市ガラス美術館学芸専門官）
- 前田 善一（一般財団法人富山市ガラス工芸センター専務理事）
- 森 俊彦（富山市企画管理部次長）
- 吉田 薫（ガラス工芸作家）

## 目次（点検項目一覧）

### ■基準1 教育理念・目的・育成人材像等

点検項目【1-01】	理念・目的・育成人材像は定められているか	1
点検項目【1-02】	学校の特色は何か	1
点検項目【1-03】	学校の将来構想を抱いているか	2

### ■基準2 学校運営

点検項目【2-04】	運営方針は定められているか	2
点検項目【2-05】	事業計画は定められているか	2
点検項目【2-06】	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	3
点検項目【2-07】	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3
点検項目【2-08】	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### ■基準3 教育活動

点検項目【3-09】	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	3
点検項目【3-10】	各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか	4
点検項目【3-11】	カリキュラムは体系的に編成されているか	4
点検項目【3-12】	学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	4
点検項目【3-13】	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
点検項目【3-14】	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	5
点検項目【3-15】	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	5
点検項目【3-16】	地域社会との連携や地域性を活かした教育活動が行われているか	5

### ■基準4 教育成果

点検項目【4-17】	就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか	5
点検項目【4-18】	退学率の低減が図られているか	6
点検項目【4-19】	卒業生・在学生の社会的な活躍、評価を把握しているか	6

### ■基準5 学生支援

点検項目【5-20】	就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	6
点検項目【5-21】	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	6

点検項目【5-22】	学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	7
点検項目【5-23】	学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	7
点検項目【5-24】	課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	7
点検項目【5-25】	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	8
点検項目【5-26】	保護者と適切に連携しているか	8
点検項目【5-27】	卒業生への支援体制はあるか	8
点検項目【5-28】	留学支援や海外との提携による国際教育交流の体制はあるか	8

## ■基準6 教育環境

点検項目【6-29】	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	9
点検項目【6-30】	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	9
点検項目【6-31】	防災に対する体制は整備されているか	9

## ■基準7 学生の募集と受け入れ

点検項目【7-32】	学生募集活動は、適正に行われているか	10
点検項目【7-33】	学生募集において教育成果は正確に伝えられているか	10
点検項目【7-34】	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	10
点検項目【7-35】	学納金は妥当なものとなっているか	10

## ■基準8 法令等の遵守

点検項目【8-36】	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	10
点検項目【8-37】	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	11
点検項目【8-38】	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	11
点検項目【8-39】	自己点検・自己評価結果の公開をしているか	11

## ■基準9 社会貢献

点検項目【9-40】	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	11
点検項目【9-41】	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	11

# 1. 教育理念・目的・育成人材像等

## 【1-1】理念・目的・育成人材像は定められているか

- モノづくりについて、従来のように作品の技術的な完成度だけでなく、物を作ることに對する社会的な責任といったものが問われてきている。このことについて、教育の現場でどのように対処していけばいいのか、考えていかなければいけない。

## 【1-2】学校の特色はなにか

- ガラスの素材特性を追求するというアプローチから、コンセプトに基づく表現の中で、ガラスも素材の一つとして用いるという傾向が強まっており、ヨーロッパやアメリカのガラス教育機関では、美術修士課程を充実させて、現代アートや造形的なアプローチへの対応を強化している。また、最近ではガラス造形で博士号を取得できる教育機関も増えてきた。日本では、専門学校や四年制の大学で、ガラスの基本的な技術を習得しながら現代アートや造形論の研究に時間を割くのは容易ではない。日本の場合はむしろ、複数の教育機関を渡り歩いてコンセプトや造形的なアプローチを深めていくというパターンが多く見られる。

このような傾向を踏まえ、富山ガラス造形研究所は、コンセプトの面で社会や人間への洞察を深めるためのノウハウを蓄積したうえで、「富山へ行けば勉強になる」と言われるような特色を持つことにより、複数の教育機関を渡り歩く人を惹きつけることが望まれる。

現代は、コンセプトワーク即ちどういうふうを考えて物を作るかという部分が肥大化しているので、その部分を強化する必要がある。

- 実際に、美術大学卒業後に富山ガラス造形研究所で学んでから美術大学の大学院に入学するという事例が少なからずあるので、その流れをより太くするためにも、富山ガラス造形研究所の特徴、例えば海外から教員を招聘していることの利点などを強調することが大切である。
- ガラス作家として活躍するようになるには10年間程度を要する。そのうちの一定期間を富山で過ごすことが有効であり魅力的だと思われるような特色を有することが肝心である。

### **【1 - 3】 学校の将来構想を抱いているか**

- 世界に約70校存在する、学位を取得できるガラス造形教育機関が絶え間なく改革を模索していることを意識しながら、現状を検証し、望ましい在り方を追求し続けることが重要である。
- 富山市ガラス美術館及び富山ガラス工房との交流をより活発化し、三者連携により富山のガラスを推進していかなければならない。

## **2. 学校運営**

### **【2 - 4】 運営方針は定められているか**

- 運営方針は、その時々々の社会状況や前年度の募集実績などをもとに、きめ細かに対応していく必要があるため、怠りない点検が求められる。

### **【2 - 5】 事業計画は定められているか**

- 適切に定められている。

## 【2 - 6】 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

- 市が定める規則に基づき、効率的にすすめられている。

開校当初より設けられている運営委員会は年1回開催され、理念・目的・育成人材像などの基本的計画の検証や教育活動の状況報告と質疑応答の機会を設けられている。

また委員からの意見等は事業・運営計画に反映するよう努められている。

## 【2 - 7】 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

- 市が定める規則に基づき、整備されている。

## 【2 - 8】 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

- 市の財務会計上のシステムと、学籍・成績管理等のデータに切り分けて、効率的に運用しているが、学校を運営する上で情報通信技術を有効活用できる余地は大きい。

## 3. 教育活動

### 【3 - 9】 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

- 富山ガラス造形研究所で取得できる専門的知識や技能に独自性や先進性を一層加味する必要がある。

**【3 - 10】** 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか

- 客観的な目標値を設定することが課題である。

**【3 - 11】** カリキュラムは体系的に編成されているか

- 体系的に編成されている。

今後とも時代の変化に応じて対応すべきである。

- 制作にあたってのヒントを得る機会を提供するため、ガラスに限らず異素材に触れる場を設けることが望ましい。

**【3 - 12】** 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか

- 適正な位置づけが行われている。

**【3 - 13】** 授業評価の実施・評価体制はあるか

- 学期（前期・後期）ごとに成績会議および講評会が実施されている。

講評会は外部の美術関係者（美術館・大学など）を招き、異なる視点より幅広い意見をいただいている。

**【3 - 14】 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか**

- 確保されている。

採用にあたっては公式 HP などから広域的に募集案内を行い、公正な審査を経て優秀な指導者を選定されている。

**【3 - 15】 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか**

- 明確になっている。

評価基準は学則に明記され、学生便覧等で記載、配布されている。

また、公式 HP には「成績評価における客観的な指標」「富山ガラス造形研究所卒業の認定に関する方針」として公表されている。

**【3 - 16】 地域社会との連携や地域性を活かした教育活動が行われているか**

- 特別講義やワークショップの一般公開、公開講座や公開制作、展覧会の開催な

ど、多くの市民がガラス工芸・造形分野に親しむことができる機会の創設に努められているが、一般市民の認知度が決して高くはないこともまた実情であり、地域社会への浸透という点において改善の余地がある。

## 4. 教育成果

**【4 - 17】 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている**

- 就職希望者には適切に情報を提供できるよう改善を図られたい。

#### 【4 - 18】 退学率の低減が図られているか

- 少子化という学生を取り巻く環境も影響していると思うが、数名の学生が年度途中で退学しており、退学防止に向けた取り組みを一層進めていくことが必要である。

#### 【4 - 19】 卒業生・在学生の社会的な活躍、評価を把握しているか

- 卒業生との情報共有を図ることが大切である。
- 卒業生・在学生の社会的な活躍、評価は把握されている。

### 5. 学生支援

#### 【5 - 20】 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか

- 概ね、有効に機能していると考えられる。

ガラス関係の就職先が少ない中での就職、進路指導は重要な業務である。

#### 【5 - 21】 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか

- 概ね、有効に機能していると考えられる。

学生個人では解決できないことは多い。制作活動だけでなく学校生活についても、面談によって糸口が見つかる場合も少なくないので、確実にフォロー願いたい。

**【5 - 22】 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか**

- 修学支援新制度として給付型奨学金の支給や、授業料及び入学金の減免措置が整備されている。以下のことが公式HP上で公表されている。

「大学等における修学の支援に関する法律の公布・施行により、令和2年度以降に機関要件の確認を受けた学校に入学する新入生や在学学生を対象に日本学生支援機構が実施する給付型奨学金の支給や、授業料及び入学金の減免措置が行われることになり、現在、本校の造形科においてこれらの支援の対象機関として富山市長から機関要件の確認を受けている。」

- 公立ということもあり、経済的支援は充実していると思われる。

**【5 - 23】 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか**

- 精神面のケアを目的に、富山市保健所や保健福祉センターとの連携も図っており、学生のストレス軽減等に努めているが、なおも心身の不調を訴える学生が存在することもまた事実である。

- 概ね、有効に機能していると考えられる。

心身共に健康を維持するために各所との連携、ケアは重要である。

**【5 - 24】 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか**

- 特殊性の高い分野の教育機関であり、支援体制の必要性を判断することには、困難が伴うものと考えられる。

**【5 - 25】 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか**

- 敷地内に隣接した学生宿舎や近隣に民間アパートがあり、情報提供を行っている。

**【5 - 26】 保護者と適切に連携しているか**

- 必要に応じ、適切な連携がされている。

**【5 - 27】 卒業生への支援体制はあるか**

- 令和3年度に作成された本校の創立30周年記念誌において卒業生名鑑を編纂されたことは、卒業生のネットワークを強化することに寄与した。
- 年間行事への参加の呼びかけや公募展の情報の提供も行われている。  
卒業後の研究生制度も設けられている。
- 富山ガラス造形研究所として現況を把握できていない卒業生も少なからずおり、卒業生と研究所あるいは卒業生同士の交流を促進する仕組みづくりが課題である。
- 卒業生との交流の活発化において議論の余地はある。

**【5 - 28】 留学支援や海外との提携による国際教育交流の体制はあるか**

- 国際教育交流体制が整備されている。  
海外のガラス関係機関との提携により海外留学制度を設けている。  
希望者には情報を提供し、対応が行われている。

## 6. 教育環境

**【6 - 29】 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか**

- 令和3年度には屋根や排煙装置等の改修を行われた。
- 施設や設備に関しては、設立から30年を経過し老朽化していることから、少なからぬ箇所において不具合が散見されるが、予算の制約があるため、抜本的な改善には至っていない。
- 学生が学業を継続する上での最低限の環境は維持しなければならない。

**【6 - 30】 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか**

- 学外学習：美術館や展覧会鑑賞、工房や会社訪問などが行われている。  
海外研修：海外のガラス関係機関との提携によって交換留学制度やワークショップ参加ができるよう情報提供や相談対応が行われている。
- 海外研修は、学生の経済的負担が大きいことや言語の障壁があること等の理由により、近年は活発とは言い難い。

**【6 - 31】 防災に対する体制は整備されているか**

- 市消防局の指導のもと災避難訓練を実施されている。  
また、火気を扱うため、日常における危機管理・安全管理体制が十分に整備されている。

## 7. 学生の募集と受け入れ

### 【7 - 32】 学生募集活動は、適正に行われているか

- 富山ガラス造形研究所の独自性を含め、教育活動を一層丁寧に広報することが重要である。
- 近年、一般入学試験の出願者数は横ばいであるものの、推薦入学試験の出願者数は増加傾向にあることから、今後、どのように学生を募集すれば良いのか研究する必要がある。

### 【7 - 33】 学生募集において教育成果は正確に伝えられているか

- 今回リニューアルするホームページにおいて、卒業生へのインタビューを含め、卒業生に関する情報を充実させられることは、評価できる。

### 【7 - 34】 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

- 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われている。

### 【7 - 35】 学納金は妥当なものとなっているか

- 平成23年度（2011年）以降は、改定されていない。妥当なものと思われる。  
将来的には時代に沿った見直しの可能性もあるだろう。

## 8. 法令等の遵守

### 【8 - 36】 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

- 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。

**【8 - 37】 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか**

- 個人情報に関し、その保護のための対策がとられている。

**【8 - 38】 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか**

- 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善が行われている。

**【8 - 39】 自己点検・自己評価結果の公開をしているか**

- 公式HP（学校案内ページ）において「学校自己評価報告書」として公開されている。

## **9. 社会貢献**

**【9 - 40】 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか**

- 以前には地域への還元ということで、ガラス工房が開催する行事を教職員や学生が手伝う機会があったが、過去2年間はコロナ禍のため実施できていない。地域還元や社会貢献の重要性を再認識する必要がある。

**【9 - 41】 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか**

- 学生のボランティア活動の事例としては、アーティスト・イン・レジデンス事業の運営アシスタントとして協力してもらうことが挙げられる。これにより、学生は自らがガラス芸術文化活動の普及・啓発の一翼を担う人材であることを自覚するとともに、自身の知識や技術を向上させている。

ただし、学生の多くがプロのガラス作家を目指していることもあり、通常はボランティア活動を行う者が少なく、特に規定も設けていない。

したがって、学生のボランティア活動に対する特段の奨励や支援を行っていないが、富山ガラス造形研究所の特性を鑑みると止むを得ないものとする。